

## 枕ちがい観音

いつの頃かわかりません。尾崎の田口家には、それは見事な金むくの千手観音様せんじゆくわんおんさまがありました。田口家は八百年以上も昔からこの尾崎に住んでいて、羽生城をまもるための出城でせきとしても大切な家でした。でもどうしたことが男の子が生まれなかったり、やっとなまれても早く死んでしまふ、という不幸が何代も続きました。不思議なことに、仏間ぶつまに跡とりあとどりが寝て、朝、目が覚めてみるときまって北枕きたまくらになって寝ているのです。

南むきにねても

西むきにねても

東むきにねても

朝になると北枕きたまくらになっているのです。跡とり以外の人には何の変りもないものですから、家の人達はしだいに気味が悪くなりました。

そこで相談をして、田口家の菩提寺ぼだいじ（先祖の墓をまつる寺）の千手院せんじゆいんに本尊様の千手観音を納めることにしました。なにしろ金むくの観音様ですから粗末にはあつかえませんが、そこで朽ちかけている千手院の観音堂を、カヤぶきのすばらしいお堂だうになおして、観音様を納めました。それから田口家にも跡とりが立派にでき、平和にくらしています。

昔は、このお堂の中のビカビカひかる金の観音様の前で地蔵様の花づくりなどをして楽しんだそうですが、いつの間にか観音様も行方不明となり、立派な跡子あとこ（仏像を安置する両とびらの箱）だけが残っていましたが、昭和24年ごろ観音堂が全焼し、厨子もやけてしまいました。

何にも残っていない、ただ田口家だけに語りつがれているおはなしです。

